

続 デスキャン隊！ がゆく！

当地で2回目の開催となる仙台・宮城デスティネーションキャンペーン（DC・25年4月～6月）。本コーナーでは、前回DC開催時に本誌で連載していた「デスキャン隊がゆく」の続編として、市内各地で行われている「おもてなし」や「仙台・宮城のファンづくり」に関するさまざまな取り組みをご紹介します。



(左) 長町商店街連合会 事務局長 DC実行委員長 佐藤 直人さん
(右) 長町駅前商店街振興組合 理事 女性部長 おもてなし隊 隊長 大井 瑛子さん

仙台・宮城DCをきっかけに今を見直し、未来を見すえたまちづくりを。

●「地元を知ること」がまちの力に

副都心のまちづくりが進む中、町内会や子ども会、PTAなど地域住民の協力を得て連携し、さまざまな取り組みを継続的にやっている長町商店街連合会（長町駅前商店街、サンカトウール商店街、長町一丁目商店街）。今回のDCで商店街ではどのような取り組みを行い、その成果を商店街活性化にどう活かしていくのでしょうか。同商店街DC実行委員長の佐藤直人さんと、

おもてなし隊隊長の大井瑛子さんにお話を伺いました。

「商店街では、日頃からお掃除デーを設けて定期的に町の清掃活動を行ったり、訪れたお客さまが気持ちよくお買い物ができるよう、気取らない笑顔のおもてなしを実践しています。それに加えてDC期間中はスタンプラリーを実施したり、史跡などをめぐる長町歩きガイドツアーを行いました。それがとても好評だったんです」と話す佐藤さん。

特にガイドツアーは、平成23年10月にJR東日本長町駅と協力して実施したガイドツアー「長町周辺の神社・お寺巡りと昔ながらのお店を散策」の経験がきっかけとなって実現した企画です。「お店にいらっしやるお客さまから、『蛸薬師さんって、どこにあるの』とか『十八夜観世音って、東北に現存する最古の木彫像といわれているんでしょう』などと尋ねられることが多かったです。蛸薬師さんは昔からイボを取ってくれる神様として知られていて、私も願をかけて取ってもらったことがあります。

そんな経験談をお客さまに話すと興味をもってくださいますし、会話が弾みますね。だから地元の人が地元にとつての『宝物』について詳しく知って、人に話せるようになることがとても大切だと思っただけです」と大井さん。さらに大井さんは、そのガイドツアーに、たくさんのお客さまが集まったことに驚いたそうです。

●住民と一体となって

JRとの街歩きガイドツアーに刺激を受けて実現した今回の長町歩きガイドツアー。ほぼ毎週日曜日に開催し、たくさんの人を集めました。歴史や史跡の専門家、地域住民がガイドを務めるとあって、「新しい発見がある」と人気は上々でした。

「商店街を含め、ここに暮らす人全員が一体となって、まちの魅力に気づき、学んだり楽しんだりして、それを子や孫に継承することがまちを成長させ、強くしていくのだと思います。最近では、あすと長町の開発も進み、新たに長町の住民になられた方々も少なくありません。しかし、変わっていくのがまちというものです。大震災でも長町には大きな変化がありました。そのような中で、広瀬川の灯ろう



長町歩きガイドツアーの様子。写真はイボとりにご利益のある蛸薬師。

流しや今年で36回目を迎える長町まつりといった地域のお祭りやイベントを継続して、「長町はがんばっているよ。だから安心して来てください」ということを、まちの外に、そしてまちの中にも効果的にアピールしていくことが今後の課題です。そのためにもガイドツアーを継続したいですね」と佐藤さん。

今回のDCへの参加を長町の現状を見つめ直し、未来を見える良いきっかけにした長町DC終了後も、商店街を中心に新たな挑戦が続けられます。

〈お問い合わせ先〉
長町商店街連合会 事務局
TEL 022-1304-2321